

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第203号(2024. 1. 1)
事務局 川西地区自主防災会

2024年 明けましておめでとうございます！

かがわ自主ぼう連絡協議会 年頭のごあいさつ

自主ぼう関係者の皆さん、新年おめでとうございます。
2024年も皆さんと共に県内の地域防災力強化に励んでまいりたいと念じております。

特に強化して実践したいのは、

- ・未組織地域へのテコ入れを、地元行政関係者の皆さんと連携して行きたい。
- ・自主防災組織と企業の皆さんとの連携強化を図るための「連携協定」を交していききたい。
- ・県内防災関係「女性部隊」協働による訓練等を実践してまいりたい。

以上3点を軸に活動を展開する所存です。

香川県危機管理総局の皆さんのご指導、又、県内市町危機管理部門の密な連携をお願い申し上げ年頭のごあいさつとします。



会長 岩崎 正朔



かがわ自主ぼう連絡協議会
会長 岩崎 正朔

香川県危機管理総局長 新年のご挨拶

このたびの令和6年能登半島地震において、犠牲となられました方々に対しまして、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。また、現在も避難を余儀なくされている方をはじめ、被害を受けられた皆様方に、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧と復興をお祈りいたします。

今回の地震発生に伴い、多くの自主防災組織の皆様が、地域住民の生命と財産を守るため、避難所運営や炊出し等の活動に懸命に当たられている姿を拝見しますと、香川県におきましても、南海トラフ地震などの大規模災害に備えた防災・減災対策を着実に進めていかなければならないとの思いを強くしたところです。

こうした大規模災害時において被害を軽減するためには、自助・共助・公助が連携・協働することが極めて重要であり、共助の要である自主防災組織の果たす役割は、ますます大きなものとなっています。今後とも、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様が行っている先進的な取り組みなどを、この「防災・減災の輪」を通じて、県内の自主防災組織全体へ、広げていただき、各地域での活動が一層活発になるよう願っております。

県においては、各地域での自主防災活動の一層の活性化を図るため、市町をはじめ、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様方とさらに連携を密にし、自主防災組織等が実施する防災訓練に対する支援や、「地区防災計画」・「個別避難計画」等の円滑な策定に向けた支援について取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続きのご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

結びに、かがわ自主ぼう連絡協議会の今後ますますのご発展と、今年が皆様方とご家族にとってより良き年となりますよう心から祈念いたしまして、年始のご挨拶とさせていただきます。

香川県危機管理総局長
田中 一裕

新春座談会

本年も自主防災活動を頑張りましょう！

【岩崎会長】



それでは定刻になりましたので、かがわ自主ぼう連絡協議会会報「防災・減災の輪」新春座談会を行いたいと思います。本日は新春座談会にご出席いただきありがとうございます。本日は、司会進行を務めさせていただきます、かがわ自主ぼう連絡協議会の会長の岩崎といいます。よろしくお願いします。

本日は、日ごろから地域の防災活動に取り組んでいる四つの団体の女性の皆さんに集まっていただき、女性として防災活動を行っていく中での悩みや課題について、意見を交わしていただき、連携を深めていただけたらと思います。

それではまず、簡単に自己紹介をお願いします。

【山本氏 日本赤十字社香川県支部】



日本赤十字社香川県支部の事業推進課に所属しております山本と申します。

令和2年に現在の部署に異動してきまして、それまでは高松赤十字病院で看護師として臨床に携わっておりました。ちょうど、コロナとともに日本赤十字社香川県支部にやってきたという感じです。コロナの影響でイベントや講習がほとんど開催されていないような状態の時に異動となったので、初めはすごくゆったりしていました。現在は、コロナが終息してどんどんと元の生活に戻ってきており、多く講習依頼をいただいている状態で忙しく活動しています。私自身の業務内容が、以前の看護師業務から事務職へと大きく変わり、災害発生時についても、看護師としての立場から本部要員へと大きく変わり、戸惑いを感じつつ、業務を行っている所です。

趣味は旅行やショッピング、着物を着て友達とランチに出かけたりしています。

【岩本氏 三豊市消防団女性部】



私は、三豊市消防団女性部の岩本と言います。所属している三豊市消防団は約1,000人団員がいますがその中で、現在女性は14名しかいません。女性部が立ち上がった経緯としては、内閣府が地域防災力充実強化を進めていく中で、消防団の女性部の設置促進を行っており、三豊市でも女性消防団を作っていただくことが出来ました。器を作っていたら、何も中身がなかったので、みんなで相談しながら、一つ一つ、「こんなことがしたい、あんなことがしたい」ということを実現させて、現在に至っています。

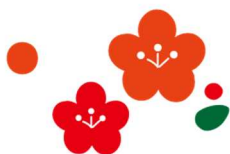
私は、消防団以外に、町づくり推進隊にも所属しており、そこで「竹灯り」をさせていただいています。この竹林再生事業の一環である「竹灯り」についても、発足のきっかけとなったのは防災です。地域の方に防災について知ってもらいたいが、防災を前面に押し出すと、余りにも硬すぎるというイメージが私の中であったので、「竹灯り」を作りながらみんながつながれたらいいなという思いから、三豊市で「竹灯り竹林再生事業」というのを立ち上げさせていただいています。それが、現在私の趣味となっております。今年度も3月に、三豊市のサッカー場や周辺の運動公園を借りて、「竹灯り」や火起こしなどの子供から高齢者の方までが興味を持っていただけるような防災のイベントを実施する予定です。

【巻野氏 香川県災害派遣福祉チーム】



私は、令和元年に香川県災害派遣福祉チーム DWAT のメンバーの先遣隊として所属しております巻野と言います。所属してから約5年たちますけれども、コロナ禍の影響もあり、なかなか思うような活動ができずに、今年ぐらいからやっと大きく活動が出来たところです。私自身、大きな災害への派遣ですとか、被災地での活動をしたことがありませんので、浅い経験ではありますが取り組んでいます。私自身は、高松市の高齢者施設で介護福祉士として23年勤務しています。これまで福祉の仕事しかしてないので福祉のことしかわかりませんが、高齢者と関わる仕事にずっと携わってきましたので、災害になった時に被災された方の支援という所で少しでもお役に立てたらなと思っています。

趣味は、海外旅行でして、パスポートの更新をして、韓国に行く予定を立てているところです。また、おいしいものを食べるのがストレス解消の一つです。



【岩崎シゲ子氏 川西地区自主防災会女性部】



川西地区自主防災会の女性部の岩崎シゲ子と申します。活動歴は16年になり、一番の年長者になっています。今までの活動は、親子防災教育や障害者施設での避難訓練、小・中・高での防災訓練を20年弱やっています。炊き出し訓練も行っており、炊き出し訓練をするときには薪炊きで行っています。

趣味と言えば、花や植木を育てるのが好きです。お店で植木を買うのではなく、友人から頂いた枝を挿し木して育て、蕾ができて花が咲いたら皆さんにあげるのが趣味です。

【藪根氏 香川県危機管理課】



私は、香川県庁の危機管理総局危機管理課で防災減災対策をはじめ、防災の企画を担当しております、藪根正浩と言います。担当する業務の中には、共助の要である自主防災組織の活性化や、これから発生すると言われていた南海トラフ地震の対策に関する業務がございます。

今回は、女性の防災への参画ということで、地域の防災力向上のためには、本当に大事な事だと思っており、この座談会への参加をすごく楽しみにしていました。

本日はよろしくお願いいたします。

【岩崎会長】

それでは、次の議題に進んでいきたいと思えます。

防災活動は地道な活動になりますので、なかなか女性としてとっつきにくいところもあったかと思えます。実際に皆さん現場でいろいろと活動されて、それぞれの立ち位置で困った事やこれからの課題について、小さなことでもかまわないので意見をいただけたらと思えます。



【山本氏 日本赤十字社香川県支部】

もともと病院で看護師として勤めてきたので、病院内での防火訓練や災害訓練については経験もあり、病院職員としての心構えはわかります。しかし、赤十字支部職員として災害救護に関わるようになってまだまだ経験不足のためわからないことも多いです。県や市との合同災害訓練や地域の避難訓練については防災担当の男性職員が対応しており、私自身は、訓練現場での支援活動が多いです。

赤十字では、災害時において医療救護だけでなくこころのケアも大切にしています。こころのケアというのは、「こころの救急法」と言えるものです。被災者の方のそばに寄り添い、ゆっくり話を聞いてあげる精神的な支援です。その時に被災者の話を聞くだけでなく、リラクゼーションやハンドケアなど癒しの場の提供もすすめており、看護師

への研修を行っています。ぜひ、それを地域のボランティアさんにも広げていけたらと思っています。

赤十字では、毎年4月に医師や看護師、助産師、薬剤師、主事で構成された救護班を任命しています。その方を対象とした支部・病院合同で基礎研修や実践研修を行っていますが、それとは別にこころのケア研修も行っています。人道を理念に掲げている赤十字として、患者や被災者の方のそばに寄り添った関わりができることが大事なかなと思います。

【岩本氏 三豊市消防団女性部】

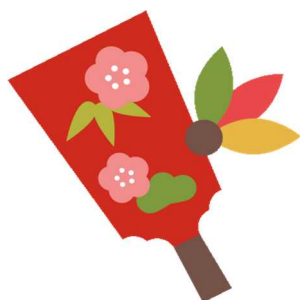
自己紹介でも説明したように、三豊市消防団に女性部を作っていただきました。しかし、作っていただいただけで、何もしなくていいわけにもいかないなので、活動を考えるという所から始めました。しかし、男性団員の今までの活動歴が前面に出まして、女性団員確保がとても難しかったです。「消防団というのは何をしてるんや」という所を皆さんに言われましたので、女性部としてきちんと活動しないとみなさんに認めていただけないのではないかとということで、団員みんなと考えながら、女性部独自の活動を必死にさせていただいています。三豊市消防団女性部の活動が岩崎会長に認めていただいたというか、お声をかけていただけらなくなったことを誇りに思っております。それぐらい、本当に女性部としての確立した地位というのが、認められていない立場であります。それが、四国だけでなく全国的な現状だと思っています。



活動については、全国的にいろんな女性部としての活動を個々にしていますので、連携をとりながらいろんな活動をぜひ私たちも学んでいきたいと思っています。

【岩崎会長】

消防団員は男性ばかりだと思うが、消防署には女性団員専用のロッカーとか更衣室はあるのですか。



【岩本氏 三豊市消防団女性部】

私たち三豊市だけで言いますと、三豊市消防団女性部は三豊市の中の防災センターの一部を、必要な時だけ使わせてもらっており、きちんとしたスペースはありません。しかし、とてもよくいただいておりますので、活動的には今のところ困っていることはありません。



【巻野氏 香川県災害派遣福祉チーム】

私個人的には、香川 DWAT が本当に最近結成されたものなので、私たちがどんな舞台でどういった支援をしているのかというのを、皆さん関係団体の方々にも知ってもらうことがとても大事だと思います。また、自分も広報的な部分であるとか、研修にしてもみんなで集まって行う研修がなかなか難しいところがありますので、自己研鑽しなくてはならない部分もあります。仕事をしながら常に災害のことに向き合うのが難しく、短時間の研修でも防災の気持ちを常に入れておくなど、仕事と防災の気持ちの両立が自分の難しいところです。

あと、介護施設の方でも、男性の方が防災やBCPのことをメインですることが多いので、男性と同じように研修も受けておかないと、トップダウンでしゃべられると温度差とかあって、例えば「火災については、スプリンクラーがあるから火災の心配はないよ」という感じで温度差を感じる場面もあるので、練習についても、ある程度上の方の人達と一緒にその場で感じられるように研修を受けられたらいいなと個人的に思います。

【岩崎シゲ子氏 川西地区自主防災会女性部】

香川県中いろいろな小・中学校や企業などの訓練に行っていますが、古い学校だと、トイレが和式だけしかありません。私は、股関節の手術をしているので、和式のトイレだとかがむのがちょっと大変です。私だけでなく、年配はかがむのがつらい方が多いので、洋式トイレが一つは欲しいなと思います。



東北に2回ほど被災地支援に行きましたが、その時も一番つらかったのはトイレでした。災害発生直後は、お水が貴重で、私たちも水を一トンぐらい持って行ったのですが、その水は炊き出しなどで使う貴重な水なので使えません。なので、三日間ぐらい顔も洗わず、支援を行っていました。なので、2~3日目になると全部化粧が取れてしまったのですが、それでも皆さんもお風呂に入れていませんから我慢できるのですが、トイレで水が流せないことは大変困りました。トイレで水が流せないで、トイレの中に段ボールを置き、その中にナイロン袋を広げ、用を足した後に袋をトイレの前に捨てていました。だから、後に入った人がエチケットではないのですが、気持ちよくする必要があるので感じています。それからは、訓練や女性の立場から講演をするときは、カバンの中には小さいナイロン袋を必ず入れておいてくださいますか、道具がなかったらできないのではなくて、全ての物で応用を利かすという形で取り組んでいけば、何でもできるということをお話ししています。

それと、災害現場で使ってはいけないという言葉があるのです。私たちが東北で支援を行っているときに、避難者のおばあちゃん何人かと仲良くなりました。その日は、自衛隊の方が、お風呂を避難者のために用意しており、避難者のおばあちゃんたちから、

「あなたも、お風呂に行ってください」と勧められました。私も自衛隊のお風呂に入りたいのですが、お風呂の水は自衛隊が滋賀県から車で運んできている貴重な水なので、私は帰ればお風呂に入れるから、避難者のために我慢しようと思いました。お風呂を進めてくれているおばあちゃんたちは、娘夫婦を亡くしたとか、夫が行方不明で探してもらっている方たちでした。私は、おばあちゃんたちに対して「ばあちゃん、大丈夫。私は帰ったら風呂に入れる」といったんです。そしたら、その時に5～6人いたおばあちゃん全員が下にうつむいたんです。その時、私は気がついたんです。私は帰ったらお風呂に入れるけど、その人たちはもう津波で流されて家がないんです。災害現場では、帰る家がないのに私だけが帰れるという言葉は使ってはダメだなと思いました。全部が全部把握はできないかもしれませんが、相手の気持ちを考えて発言・行動することが重要だと感じました。

お話は2月号へ続きます。お楽しみに～



事務局だより

令和 6年 1月

本年もよろしくお願いいたします。

会報 200 号達成記念祝賀会



会報 200 号達成記念祝賀会を県民ホール 6F ギャラリーカフェ「シレーヌ」において 12 月 13 日（水）17:30 より池田知事様 田中危機管理総局長様をはじめ、香川大学名誉教授 長谷川先生 さらには e-とぴ関係者もおいでいただき、盛大に催おされた。

会員 29 名も参加され、200 号までの道のりなどに花を咲かせ、楽しい時間をすごすことが出来ました。長谷川先生には、これまで 21 回にわたって会報の原稿をいただき、会報発行に大変お世話になり、女性代表より花束の贈呈をさせていただきました。池田知事様におかれましては、終始なごやかに会員の皆様と談笑され、写真撮影にも気軽に応じていただき、会場の雰囲気をも大いに盛り上げていただき、感謝申し上げます。

300 号目指して頑張っていきたいと思います。



編集後記

1月の防災減災の輪は、「新春座談会」を掲載させていただきました。ありがとうございました。